

## 2021年度 取組団体（保育園、幼稚園）における事故・けがの報告事例 及び 予防の取り組み

### 1 病院の受診が必要だった事故・ケガの報告事例

種別	場所	事故発生の状況	
転倒	保育室	友達をおんぶしようとしてバランスを崩し、転倒。床と、床に落ちていたブロックで顔（鼻と右目上）をぶつけた。	
		午前のおやつ後、椅子から立とうとせずに落ち、尻もちをつく形で転倒。舌を噛み舌の裏側を切り出血する。	
		大型積み木を斜めに立てかけその上に乗り転倒する。アゴを積み木で強打し、その勢いで舌の両側を噛み出血する。	
		友達の持っていた遊具を持ち去ろうとふり向いた際に転倒し、上口唇のすり傷と口のケンを切り出血する。	
		机と机の間に立ち、その状態で机に手をつけて体を浮かせ前後に揺らした際、バランスを崩し前へ倒れる。口の中から出血。	
		保育室でパジャマへ着替えている際、他児に押され転倒し口を床で打つ。	
		保育室にて、模倣遊びをしていた。四つん這いになろうとした時に、上手く手が付けず口から転倒。上唇からの出血と歯茎に赤みが見られる。	
	階段	お預かりの時間、別の保育室へ移動し遊び始めようとした際、怪我をする。個人机が等間隔で並ぶいつも本児が過ごしている環境ではあったが、本児が友達と話し、手をつないでいる状況で個人机の間を通ろうとしてしまった為、机の脚に本児の足がひかかり転倒。近くにあった個人機の側面の上唇を打つ。鼻下の部分がうっ血、前歯の歯茎が切れ、出血する。	
		保育室に向かう際、走って移動し、階段で足を滑らせ転倒。階段の角に左眉下を打ち、1.5cmほど切れ出血。	
		すべり台に上がる階段で、カラー帽子を手に持っていたため、手がすべって転倒。階段であごを唇を打って歯茎から出血した。あごは、内出血し、腫れていた。	
		朝、園庭で友達と鬼ごっこをして遊んでおり走って逃げる際、玄関横に2段のブロック（袖壁）を飛び越えようとするが、足がひかかりそのまま転倒。右前歯の歯茎に血がにじんでおり、下唇も少し切れて出血した。	
		園庭遊びに出る為の準備が整い、普段設定されていない高さ25センチ程の木製平均台めがけて駆け出す。保育士が補助につく前に一人で乗り、飛び下りる。その際、着地のバランスが悪く右側に倒れこみ右肩のあたりを平均台で打ってしまう。	
		複合遊具ののぼり棒につかまろうとした際、手がすべり前方へ転倒。のぼり棒部分に上唇と前歯をぶつける。	
		あさがおの観察に行こうとしていた際、ドアマットにつまずき、転倒。サッシに頭をぶつけ、2cm程の切り傷を負う。	
園庭	鬼ごっこをして園庭を走り回っていた時に、大きな石を隠す為に置いてあったタイヤにつまずき足をひねる。		
	園庭で友だちと走っていた際、後ろで走る友だちの方を振り向き、バランスを崩し転倒。砂場横の枕木で胸部・腹部を強打し、痛がる。その後すぐに手が震え、顔色が悪くなる。		
	走っていて、靴とグリーンマットの間でプレーキがかかり転倒。主に顔の左半分をグリーンマットにぶつける。		
	転落	園庭	預かり保育の際、園庭で遊んでいる時に滑り台のカーブのところから落下。
			午後の戸外遊び中、遊具の上で鬼ごっこをしており、滑り台を滑りながら鬼が下にいるか確認しようと覗き込んだ際、滑り台のカーブの部分から落下。
			園庭で遊んでいて、鉄棒の上を上ろうとした際、手が離れて落下し、右腕を地面で打つ。その後も痛みが引かず、腕に力が入らない様子であった。
			夕方、園児13名に対し保育者3名で外遊び開始。高さのある遊具で本児を含む4名が遊んでいた。保育者が注意喚起をしようとしたが、迎いの保護者が来園したため園庭端での保護者対応に移った。落下する音と泣き声が聞こえたため駆けつけると、ぶつかってしまったと思われる園児は遊具最上段に、本児は遊具下で倒れ、痛みを訴えていた。

種別	場所	事故発生の状況
人・物との接触・衝突	保育室	着替え中、ズボンを履こうとしてバランスを崩し、目の前の子どもの腰に衝突。歯茎から出血、歯がぐらつく。
		食食用テーブルの下にもぐり込みストッパーをいじり、片方のテーブルの脚が閉じてしまい本児額に落下する。
		お楽しみ会で使用した小道具の大型カルタ(ダンボール)を友達が上に上げた際、大型カルタの角が右目に入り充血する。
		保育中、友達がぐすぐってきたため、逃げようとしてロッカーの角で頭(左耳上)をぶつけて切った。
		給食後、絵本を読んで過ごしている際、友だちの投げた絵本が左目に当たり、目の上下に傷、目の中が赤くなる。
		2組に分かれてボールを使ってゲーム遊びを行っていた。本児は床に座って友達の応援をしていたが、隣の友達が立ち上がって飛び跳ねながら応援をしたため、本児の左目に上靴の裏が当たってしまい痛みを訴える。
		夕方の自由遊び時間に乳児室にて玩具で遊んでいたところ、本児がハイハイで場所を移動した際に、近くにいた友だちが上に掲げた玩具が本児の目尻にあたる。
		椅子を運んでいる際、周囲に子どもも多くいたため体がぶつかってしまい自分の持っていた椅子に右足小指をぶつけてしまう。
	他児が見ている絵本を見たくて取ろうとした際、前に倒れて、その他児の頭に歯をぶつける。前歯の裏・歯茎から出血あり。	
	園庭・公園	園庭で水分補給をしている際にサッカーをしていた友だちのボールが顔に当たった。その衝撃で前歯が水筒の飲み口に当たり出血して前歯が少しぐらぐらした。
		園庭での自由遊び中に複数の園児で鬼ごっこをしていて、本園児が前方をよく見ていなかったため、前方から走ってきた園児と衝突した。その際、左目付近を打ち、腫れた。
		園庭にあるすべり台をお友だちと滑ろうと階段を走りながら登っていた時に、前にいたお友だちの靴が本児の目の所に当たった。
		園庭で自由遊びをしている際、滑り台下を走り抜けようとし、滑り台に前頭部をぶつける。ぶつけた部分に2cm程の傷ができ、傷の深い部分から出血する。
		友だちと滑り台で遊んでいたとき、降り口でトンネルを作っていた友だちをよけようとして、右手小指を滑り台手すりにぶつける。
散歩の際、公園で少しの間遊べること、広場ではなく遊具で遊ぶことを話し、11人を一斉に遊具に促す。塊になった状態で、子ども達が滑り台の階段を登ろうとし、子ども達同士の体がぶつかったり、押し合ってしまったことにより転倒(1名)し、階段に右の肩をぶつけ出血する。		
ホッピングで遊んでいる他児の真後ろに本児が立っており、ホッピングから飛びおりる際、本児にぶつかる。ぶつかった拍子に転び、左うでを強打する。		
動物にかまれる・虫に刺される	保育室	着替えをしようとしていた際に虫を見つけて拾おうとし刺される。右手の平の中央が腫れ、中心に刺された跡がある。
その他	保育室	本児が走っていた為、保育士がとめたが、友達に腕を引っぱられてしまい左肘を痛める。
		朝の自由遊びの時間にソフトブロックで遊んでいたところ、他児とブロックの取り合いになり、右肘が引っ張られたようで「痛い」と言って右肘をかばう様子が見られる。
		夕方の自由遊び終了の片付けの際、本児を含む園児3名でテーブルを持ち上げ片付けようとしていた。保育士が「それは子どもだけで持つとあぶないから」と声をかけると、1人がすばやく手を離れてしまいテーブルが左足親指の爪の生え際に落下し、出血。
	廊下	昼食後、廊下のホール側突き当りにて、着替えをしている際、友だちに抱っこをしてもらい滑り落ちてそのまま床で顔面口元を打つ。
		降園時、申し送り事項を保護者と話していたところ、保護者の両足の間にいってぶらさがっていた本児の手が離れ(すべり)、床に倒れあごを打つ。
	園庭	外遊び時、他児の腕を本児がひっぱった為、他児が怒り、本児の腕をひっぱったところ痛がる。
降園後、母親に鼻が痛いと訴える。母親は風邪状況を心配し、病院受診を伝えに来る。(原因は、本児が鼻に木の実を入れたためだった) 園庭であそんでいる際、生垣植え込み内の草をちぎろうとして、その草で指を切る。		

## 2 実施している事故・ケガ予防の具体的な取組事例

### ① 児童への安全教育

#### ◆遊び方指導

- ・遊びの前には必ず、遊具の安全な使い方を教えるようにしている。
- ・4月に子どもたちと一緒に遊具の使い方を確認した後も、1年を通して遊びの中で確認している。
- ・月始めは遊具の使い方など子どもたちと再度確認したり、子ども達に考えて口頭で話すようにしている。
- ・遊ぶ前に危険箇所について子どもたちと必ず約束事をしてから、子どもたちも意識して安全に遊べるようにしている。

#### ◆見守り

- ・遊具の使い方の指導を日常的に見守りながら行っている。大きな受傷の減少に繋がっていると思う。
- ・鉄棒、ボルタリング、うんていを使用して遊ぶ場合は、そばで必ず見守りをする。

#### ◆児童へのヒヤリハット周知

- ・園内での怪我やヒヤリ・ハットを、お集まりの際に子どもたちに知らせて注意を促している。

### ② 職員による室内、園庭等の安全点検 等

#### ◆職員間の情報共有、対策

- ・ヒヤリハットの共通理解・共通実践の徹底(全職員)
- ・傷病記録、ヒヤリハット記録を月毎に集計し、事故防止委員会で公表し、職員の危機意識を高めている。
- ・特に病院に行かなければならない「けが」があった場合、場所・原因・けがの状況等を共通理解し、同じような「けが」がないようにしている。
- ・ヒヤリハットを集約し、ケガのあった時間・場所などの状況を職員で共有し、必要な対策を講じている。
- ・小さな事故・けがであっても、全職員で情報を共有し、再び事故やけがが起きないように努める。
- ・事故発生時の状況を職員全員で把握し、見守り強化・再発防止の研修を設けている。
- ・年度末に事故分析を行い、職員で共有する。
- ・会議(保育労働会議)にて見直し、改善を行う。また、全国の死亡事故の資料の読み合わせを行う。
- ・施設内の危険箇所の見直しを行い掲示する。

#### ◆環境・対応の改善

- ・階段の部分や死角になっている場所にカメラを設置してケガの場所を確認している。
- ・固定遊具の業者による点検を実施
- ・危険箇所がないか毎週点検を行い、危険箇所を発見した場合はすぐに対応していくようにしている。
- ・抱っこ紐を付ける際の事故があった為、使用する際は座って作業するようにした。

#### ◆研修、講習

- ・子どもに起こりやすい事故の予防と手当て、病気への対応について、日本赤十字社の方を招き講習会を実施
- ・防災の話の中で、内容の1つとして事故やケガの話をした。
- ・元自衛隊の方を招き、救命講座を実施
- ・とっさの時の応急手当講座を実施(胸骨圧迫・AED取扱い)
- ・新人スタッフに危険箇所がないか確認する(日常の光景に危険箇所がないか把握するため)

### ③ 体力・運動能力の向上を目的とした活動

#### ◆活動

- ・リズム体操の時間を設けるようにしている。
- ・体幹の発達を意識して、巧技台を使った遊びや縄あそびなど多く取り入れている。
- ・子どもの体幹トレーニングを実施
- ・様々な運動を取り入れた運動遊びを実施
- ・毎朝の体操や、かけっこなどの体力づくりにつながる運動活動を行っている。
- ・4、5歳児は毎週、3歳児は隔週で体育指導員の指導で体操の日を設け、体幹を鍛え、基本的な運動能力を習得できるようにし、事故、ケガの予防につなげている。
- ・毎週3日間、朝の運動を30分間運動指導員の指導の下、運動能力と体力の向上のため園庭で色々な用具を使ってアクティブタイムとして活動を3歳児以上全員に行っている。神経系の発達に繋がってきたと思われる。
- ・けがをしにくい体作りを各年齢で保育の中に取り入れている。

#### ◆講話

- ・講師による発達における運動の大切さの育児講話を実施

### ④ その他の取り組み

- ・児童虐待予防、対応講座(資料を作りそれをもとにマルトリートメントを重点的に実施)
- ・産後うつについての学習会を実施
- ・アンガーマネージメント講演会を実施
- ・消防訓練、水の事故の対処法の研修を実施
- ・蜂、マダニについての研修を実施
- ・登下校見守り・防犯パトロール・公園遊び場の危険箇所チェック
- ・子育てひろばにおいて、県交通安全協会による交通安全教室を実施

※2021 年度年間取組実績簿提出時に、取組団体へ参考情報として事故報告書の提出を依頼したのより抜粋